

## 特定研究集会（課題番号：30C-03）

集会名：仮設住宅研究発表会

研究代表者：牧 紀男

開催日：平成30年9月1日～9月2日

開催場所：京都大学宇治キャンパス内 防災研究所 連携研究棟3階 大セミナー室

参加者数：35名（所外3名，所内32名）

・大学院生の参加状況： 3名（修士 2名，博士 1名）（内数）

・大学院生の参加形態 [ 聴講者 ]

研究及び教育への波及効果について

応急仮設住宅についての体系的な研究成果のとりまとめを行うとともに今後の研究課題の抽出をおこなうことができた。大学院生の参加もあり，学生の防災についての知見をたかることができた。

研究集会報告

(1) 目的：

東日本大震災の被災地では，現在も多くの人々が応急仮設住宅での生活を余儀なくされ，災害対応上の大きな課題となっている。応急仮設住宅研究は，阪神・淡路大震災以降，災害発生ごとに，計画・歴史・環境工学といった様々な分野で行われてきたが，分野横断的かつ体系的な研究の蓄積は行われていない。本研究集会では，これまでの学術的研究成果の共有・体系化を行うと共に，今後の応急仮設住宅のあり方についての検討を行う。

(2) 成果のまとめ

過去の建設事例・新しい建築技術，入居対象者の被害程度・年収をどうするのかといった応急仮設住宅の制度，2) 何戸・いつまでに建設するのか，国内企業だけで対応可能かといった供給システム，3) 建設場所・間取り・配置計画・共有施設をどうするのかという建築計画，4) 暑さ・寒さ・結露といった建築環境計画，6) 供給された住宅を支援団体とともに住民が応急仮設住宅をどう改良していくのかという住みこなし，7) 入居者管理・退去，建築物の維持管理・撤去・再利用といった居住者・住宅マネジメントについてのこれまでの知見，今後の報告性についての知見を得た。

今回の成果をふまえ以下のような構成で仮設住宅の図鑑を作成していくことが確認された。

1. 始まりから終わりまで

仮設住宅の全体像・タイムラインを概観する

2. 歴史と法律制度

これまでに建設された応急仮設住宅，制度・法律の変遷について説明する。

3. どれだけ建てるのか

応急仮設住宅の必要建設戸数の推定方法，南海トラフ地震・首都直下地震といった巨大災害時にどれだけの応急仮設住宅が必要なのかについて説明する。

4. どこに建てるのか

災害後の復興との関係もふまえて，応急仮設住宅をどこに建設するべきなのかについて説明する。

5. 配置計画と必要施設

応急仮設住宅団地の配置計画と必要な公共施設（集会所他）について説明する。

6. 構造・建設方法

プレハブ，木造，基礎のあり方といった応急仮設住宅の構法とさらには建設方法の課題・あり方について説明する。

7. 暑さ・寒さ・湿気

応急仮設住宅の温熱環境の課題，その解決方法について説明する。

8. すまう

応急仮設住宅の居住環境改善の方法（仮設のとりせつ），地元団体・外部団体による居住者支援のあり方について解説する。

9. マネジメント・集約・退去

入居者選定，入居者管理，ケースマネジメント，建物管理，応急仮設住宅の集約，退去といった応急仮設住宅の管理・運営の方法について説明する。

10. 再利用

応急仮設住宅の使用後のリユースについて木造，プレハブの両方について過去の事例も含めて説明する。

11. はたらく仮設

仮設店舗，仮設工業団地といった産業用仮設のあり方について説明する。

12. しえんする仮設

高齢者・要支援者向けのグループホーム応急仮設住宅のあり方について解説する。

13. 新しい仮設

海洋コンテナ，FRP の応急仮設住宅等，新たな応急仮設住宅の可能性について解説する。

14. 今も残る仮設

災害後数十年が経過した現在も利用されている応急仮設住宅を紹介する。（

15. 今後の応急仮設住宅のあり方

みなし仮設住宅が多くなる中で建設型仮設の今後のあり方（ソーシャルハウジング化，災害復興公営住宅への居住しながらの転用等）について検討を行う。

<付録>

I 応急仮設住宅総覧，II 海外の応急仮設住宅

(3) プログラム：

9月1日（土）14：00～17：15

※講演時間 20 分，質疑 10 分程度

| No. | 時間          | 氏名   | 発表タイトル                            |
|-----|-------------|------|-----------------------------------|
| 1   | 14:00-14:30 | 佐藤慶一 | 想定首都直下地震後の仮設住宅                    |
| 2   | 14:30-15:00 | 平田隆行 | 伝統的避難住宅「水上げ小屋」と 1953 年の応急仮設住宅     |
| 3   | 15:15-15:45 | 益邑明伸 | 「災害復興過程の産業用仮設施設に対する公的支援の変遷と近年の動向」 |
| 4   | 15:45-16:15 | 岩佐明彦 | 「『熊本型デフォルト』仮設住宅の現状」               |
| 5   | 16:15-16:45 | 大月敏雄 | コミュニティア型仮設住宅の計画・実践・評価             |
| 6   | 16:45-17:15 | 田中智之 | 「小規模仮設団地におけるコミュニティスペースの計画」        |

9月2日（日）10：00～15：30

| No. | 時間          | 氏名    | 発表タイトル                                     |
|-----|-------------|-------|--------------------------------------------|
| 7   | 10:00-10:30 | 前田昌弘  | 「仮設住宅住環境改善支援の実践的研究―気仙沼市本吉町での活動を事例に―」       |
| 8   | 10:30-11:00 | 阪田弘一  | 規格型応急仮設住宅の内装改善実験                           |
| 9   | 11:30-12:00 | 伊庭千恵美 | 「仮設住宅の温熱環境に関する調査レビュー」                      |
|     | 12：00-13：00 | 昼 食   |                                            |
| 10  | 13:00-13:30 | 本間義規  | 「岩手県における応急仮設住宅の温湿度環境実測と熱湿気性状解析に基づく小屋裏結露防止」 |
| 11  | 13:30-14:00 | 牧紀男   | 応急仮設住宅の変遷―木造，プレハブ，借り上げ・木造―                 |
| 12  | 14:30-15:00 | 原野泰典  | 「海上コンテナによる多層型仮設住宅の計画と建設」                   |
|     | 15:00-15:30 | 全体討議  |                                            |

(4) 研究成果の公表

当日の発表資料を冊子にとりまとめ，今後 HP での公表を行う予定としている。